



# 六華の心

酒田市立第六中学校  
学校だより 第31号  
校長 加藤 浩昭  
令和5年3月10日

13日(月)には3年生の修了式と同窓会入会式、そして、生徒会による三年生を送る会が予定されています。翌14日(火)は127名の卒業生の旅立ちを祝する第38回卒業証書授与式です。

16日(木)には1,2年生の修了式を行い、翌日からは年度末休業を迎えます。令和4年度もいよいよ残りわずかとなりました。

今週、学校では、中学校において最も大切な行事である卒業式に向けての準備が進められました。7日(火)に公立一般の入試も終わり、翌日から3年生は、学年での式、合唱の練習、教室等の清掃等に取り組みました。その合間には学年集会を開いて、3年間の成長を確かめ合ったり、卒業式に向けての心構えづくりを行ったりしました。また学級ごとにお別れ会も開かれました。今日、卒業アルバムが配られました。うれしそうに、でもどこか照れくさそうにアルバムを開く子どもたちの表情を微笑ましく感じました。

1,2年生は三年生を送る会で3年生に贈る合唱(「遠い日の歌」)の練習を頑張っていました。特に男子の発声が素晴らしく、当日は聴き応えのある歌を3年生にプレゼントしてくれるだろうという期待感でいっぱいです。また、校舎内や3年生教室の飾り付けの準備等も進んでいます。当日は、会場となる体育館の広さとの兼ね合いで、1,2年生は教室でのリモートでの参加となります。3年生への感謝の思いをすべて歌に込めましょう。



日々数字が小さくなる  
カウントダウンカレンダー



下駄箱もきれいに



## 今年度の「六中賞」・「六華賞」表彰生徒

### 〈六中賞〉

○成績努力賞 沼田実莉さん(1-1)、阿部瑞己さん(2-1)、小山陸大さん(3-4)

○部活動 【陸上】藤田春輝さん(1-4)、高橋宏太さん(3-3)、相良來瞳さん(3-4)  
【水泳】前田凌佑さん(3-3)、佐藤まりなさん(3-2)、高橋茉優さん(2-3)  
伊藤妃奈子さん(2-1)、佐藤光莉さん(1-3)、栄田柚菜さん(1-2)  
【相撲】仲條峻太郎さん(2-3)

※部活動については中体連主催の大会において、県大会3位以上。東北大会以上の大会に出場した生徒に贈られます

### 〈六華賞〉

様々な取り組みや企画を提案し、実行に移した執行部・各委員長だけでなく、それに協力してくれた六中の全生徒を讃え、「第六中学校生徒会」として、六華賞を贈ります。

※六華賞は3年生の修了式の際に、それ以外の個人の賞はそれぞれの学年の修了式で、表彰をします。

# 忘れてはいけないこと～明日で東日本大震災から12年～

2011年（平成23年）の3月11日。当時私は酒田三中に勤務していました。

大地震が起こった14:46には、体育館で卒業式に向けて全校練習を行っていました。前日の公立高校一般入試を終えた安堵感、5日後に迫った卒業式を成功させようという高揚感と適度な緊張感の中、練習に臨む子どもたちの様子を、3学年の主任として幸せな気持ちで見っていた時です。

突然襲った尋常でない強さの揺れ。子ども達の悲鳴。恐怖におびえる子ども達の顔を、12年がたった今でも忘れることはありません。酒田市内も一斉に停電になりました。電力が復旧し、TVをつけると、そこからは被災地の惨状の映像と、叫ぶように状況を伝えるアナウンサーの声が飛び込んできました。押し寄せる津波に流される家、船、車、人。炎上する被災地の街。数日後には福島第一原発の事故の様子…中でも私が忘れられないのは、地震で横倒しになった高速道路の映像でした。

震災発生5日前の3月6日（日）に、私は当時担当していた部活動の子どもたちを引率して、宮城県の松島中学校を練習試合で訪れました。その時に子どもたちと一緒にバスで通った高速道路が、巨大な力でねじ曲げられたように、何かに踏みつぶされたように倒れていました。

12年という年月は短いようで長いのだと改めて思います。今の小中学生にとっては、東日本大震災は歴史上の出来事と捉えられるのかもしれませんが、3.11を経験した者として、あの日のことを、そしてその後のことをどのように伝えていけば良いのか、いつも考えさせられます。東北に住む者として、日本という国に生きるもの者として、そしてあの日を経験した者として、2011年3月11日はやはり忘れてはならない特別な日であると思います。

先月、トルコ・シリア両国で甚大な被害が出る大地震がありました。先日NHKでは、発生が懸念される南海トラフ地震を取り上げたドラマ・番組が放映されました。酒田沖は巨大地震の空白域です。市の東部には大きな活断層も走っています。「自分は大丈夫」、「自分が住んでいるところは関係ない」という思い込みは危険です。この週末には、お父さん、お母さんがあの日経験したこと、震災を通じて感じたことを子ども達に話をしてください。「語り続けること」それがあの日を経験した者の務めだと考えます。



職員室前の、東日本大震災関連の本、新聞記事 etc 資料を手にしていた2年生に「震災の時は何歳？」と聞いてみると… 「3歳です」。「私は2歳」という答えが返ってきました。

## 3年生の保護者の皆様へ

コロナ禍によりそれまでの当たり前が奪われた、通用しなくなった3年間。お子様たちは、様々な制約の中でも、しなやかに、たくましく中学校生活を送ってきました。その集大成となる卒業式。教職員一同、保護者の皆様と一緒に卒業生の旅立ちを讃え、見守らせていただきます。

学校便り「六華の心」の次号（No32）は、卒業式の様子なども紹介しながら、3月16日に発行予定です。お子様を通じての配布が叶いません。学校のホームページに掲載すると共に、安全安心メールで送らせていただきます。御一読願えればと存じます。保護者の皆様への謝辞は卒業式の中でも述べさせていただきますが、まずは1年間、誠にありがとうございました。